

インディアナ日本語学校便り

だいごう
第40号

令和7年3月8日事務所 317-255-1631 メール ijls@indiana-j-school.net

(HP) <http://www.indiana-j-school.net>

校長 森 勝義

「卒業式ソング」 ～時代の移り変わり～

校長 森 勝義

インディアナ日本語学校もいよいよ来週の3月15日、卒園・卒業式を迎えます。幼稚園26名、小学部26名、中学部22名、高等部8名、園児・児童・生徒82名が卒園、卒業します。

卒業式に歌われる「卒業ソング」を調べてみますと、年代によって変わっていています。5年おきに変わるらしいです。私の年代は、「仰げば尊し」「ほたるの光」でしたが、今の時代、この代表的な2曲を歌う学校は、ほぼゼロです。中学校在籍中は「大地讃頌」という難しい合唱曲がよく歌われていました。その後、埼玉秩父の校長先生が作った「旅立ちの日に」が歌われるようになりました。

今日本の小学校で人気のある卒業ソングは「桜の雨」という曲らしいです。ボーカロイド、合成音声で歌っている方が感情移入しやすいとのこと。私自身、この曲をはじめて聴きました。なんだか心の奥にあるなつかしい思い出をよみがえらせてくれる不思議な曲でした。ぜひ皆さんも聞いてみてください。

3月15日は、全員で82名の新しい巣立ちの日を祝いましょう。

児童の作品 「夢のドア」

6年1組 岡野 創志

「人の人生にはいくつもの夢のドアがある。人は大きな夢を持った時、目の前に現れたバカデカドアに畏縮して諦めちゃう。本当はバカデカドアなどなくて、小さなドアいっぱいあるだけだ。その小さなドアを開けるたびに夢がひとつずつかなっていく。」

これは「宇宙兄弟」というまんがの中に出てくる言葉です。ぼくはこの言葉を選んだのはカッコいいと思ったからです。

宇宙兄弟のまんがの中で、みんないろんな事をごんばって宇宙飛行士を目指してむずかしい試験を受けたり、厳しい訓練を受けたりしています。宇宙飛行士になるということは、バカデカドアです。

ぼくの前にはバカデカドアはまだ見つかりません。でも、小さいドアは「算数の問題がひとつとけた」「英語が少しわかった」「友だちができた」「新しい漢字を覚えた」と少しずつ開いていきます。

中学生になってもどんだドアを開いて行って成長していきたいです。将来の夢に向かって一歩ずつ向かっていきたいです。

3月1日作品 土曜パラダイスで紹介

小学6年2組 西田 菜々子 「しんがっき ともだちいっぱい つくりたい」

小学6年2組 小森 都宥子 「新学期 桜の下で 写真撮る」

小学6年1組 羽田 康生 「卒業式 泣くも笑うも これが最後」

中学3年1組 今井 一花 「花ひらく 新たな道への 第一歩」

小学6年1組 赤木 七海 「卒業が 近づいてきて 涙出る」

小学6年1組 深川 緒莉 「小学で 学んだことを 中学へ 新たな道を歩むために」

中学1年1組 熊澤 佐保 「凍ってた 池では鳥がさんぼして 空は広がり 芝生は萌える」

小学4年1組 赤木 碧海 「春の日に 菜の花がさき 美しい」

小学5年2組 石井 碧芭 「卒業式 代表するの 楽しみだ」

小学3年1組 えとう ゆい 「かんじてすと べんきょうたいへん どうしよう」

小学3年1組 かどの ゆあ 「おかあさん いつもかじして ありがとう」

小学2年1組 読み人知らず 「3年生の先生 まだなぞだ」

小学6年1組 寺澤 悠人 「もう卒業 みんなと過ごした日々は かけがえのない時間だった」

ダジャレコーナー

小学1年2組 たかはしけい 「虫をむしする」

小学1年2組 ごとうゆういちろう 「ドカンがドッカーン」

小学1年2組 ふかがわいつき 「かめのかめん」



ヒゲ森の言葉の森・探検

もうぼ さんせん

子皿母二遷

子どもの教育には環境が大切だということ。

浪費するのを楽しんだ時間は、浪費された時間ではない。

バートランド・ラッセル

1872年〜1970年 イギリスの数学者・哲学者。

自分が納得できる時間の使い方をすれば、その時間は有意義な時間である。